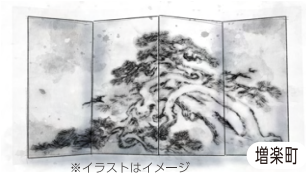
13 釈迦山（しゃかやま）

江戸時代の後期から明治初年にかけて活躍した浮世絵師五雲亭貞秀（ごうんていさだひで）の描いた東海道五十三次の景勝のうち、浜松順路舞坂宿の絵図を見ると、高塚村、増楽村を通っている旧東海道の両側にはきれいな松並木が植えられています。
この松並木と並行して少し北側の小高い松林の山があり、この小山のうち、高塚地蔵院の東南に少し行った地域は昔「釈迦山」と呼ばれ、大変に立派なお釈迦様の像が祀られていました。

14 堀江領境界石（ほりえりょうきょうかいせき）

高塚村は江戸時代、宝永２年（１７０５年）に堀江舘山寺に城を構えていた堀江領主大沢右衛門督基隆（うえもんのすけもとたか）の領地となり、明治維新まで堀江領でした。そのため浜松藩との境界には、境界標示の礎石が建てられていました。

15 一揃庵（ひとそろえあん）　音羽の松（おとわのまつ）



※イラストはイメージ

福田半香（ふくだはんこう）はかの有名な渡辺崋山の弟子で親交が厚く、崋山塾居のときは生活援助に労を惜しみませんでした。半香が、たまたま当地を通りかかった時、小沢渡村六所神社境内の名松に絵心を動かされ、松の屏風絵を完成しました。これが「音羽の松」です。
なお、半香が制作に没頭した場所が、小野田五郎兵衛家の離れであり、「一揃庵」と呼ばれ、玄関には「一揃庵」の額縁が掲げられていたそうです。

16 増楽寺（ぞうらくじ）

増楽寺は臨済宗方広寺派大通院の末寺です。天正１８年（１５９０年）５月６日に入寂した明庵祖円（みょうあんそえん）和尚により開山されました。寺には、明庵和尚が使用されていたという金襴の袈裟が残されており、増楽寺の寺宝となっています。
そのほか、釈迦涅槃図の掛け軸、馬頭観音像などが保存されています。

17 高札場跡（増楽）（こうさつばあと）

幕府や領主が決めた規則や掟などを木の札に書き、人目につきやすい場所に掲げて村人達に告知していました。木札は高さ２間（約３．６ｍ）、横１間（約１．７ｍ）、縦０．６間（約１ｍ）ほどありました。

18 秋葉常夜燈籠（あきはじょうやとうろう）

火防の神、秋葉山への参詣が江戸時代後半から盛んになり、秋葉山に通じる街道に多くの燈籠が残っています。火防のお札を頂いて各家庭に配り、そのうちの１枚を燈籠に納めて火を灯し地区の安全を祈ったといいます。
また、街道を往来する人々の道標としても利用されました。

※本地図はイラストマップであり実測と異なります。

19 西洗橋（にしあらいばし）

高塚川改修工事にともないかけられた橋で、可美村誌では架橋年月が昭和４１年（１９６６年）３月となっています。
可美地区の旧東海道（国道２５７号）より南側は沼地が多く、一面に蓮が生えていました。しかし、このあたりの水底は砂地で、常に清水がこんこんとわき出ていました。プールのなかった当時の子ども達の水泳場でもありました。
この澄んだ水は、東の沖洗いに達し、新橋の農家の野菜・農機具の洗浄に大きく役立っていました。

20 みたらしの池（みたらしのいけ）

昭和２２年（１９４７年）１月頃まで、可美小学校運動場の南西辺りに水神様をお祀りした人工の池があり、「みたらしの池」と言われていました。

21 沖洗い（おきあらい）

西南部排水路にかかっている西新橋付近から若林町のあたりは「沖洗い」と呼ばれています。地元の人々はこの西新橋を「沖洗い橋」と呼んでいて、「沖洗グランド」は大切なスポーツの場として愛されています。
このあたりは昔、蓮池が広がり、普段でも湿地の状態で、特に大雨が降ったときなどは歩くこともできず、束ねた藁を道に敷いて、やっと通ることができる状態でした。
この「置き藁」がだんだん変化して「沖洗い」という地名になったといわれています。

22 蓮池（はすいけ）

蓮池は、高塚池（高塚、増楽地内）、蓮池川（若林地内）、沼田池（通称、次郎助池。東若林地内）を総称して呼んだ名称です。浜名郡誌によれば、東西およそ0.6里（約2.5km）、南北およそ4町（約0.4km）、周囲およそ1.5里（約5.9km）の広さであったといわれています。
昔は蓮や 蓴菜（じゅんさい）がたくさん採れて有名で、藻草も豊富でした。
蓮の花が咲くころとなれば、蓮見の宴が開かれ、近郷近在から弁当持ちの蓮見客でにぎわい、ここで採れた蓮根は「高塚蓮根」と呼ばれ、珍重されていました。

23 辻（つじ）

長島街道は、伊場、鴨江、入野、雄踏へとつながる大変重要な生活道路で、戦前は地域の人々ばかりでなく、倉松や小沢渡方面の多くの人々がこの道を通り、行き来していました。春と秋のお彼岸参りやお稲荷様の大祭の時は、遠くからくる人々もこの道を通り、大変な賑わいであったと言います。長島街道と旧村道（東若林～高塚線）の交わるところを村の人々は辻と呼んでいました。辻という字は十字路に交差する道を意味した地点に由来します。

24 桃屋敷（ももやしき）

古来より桃の里として有名で、このあたりを中心に桃の木がたくさん植えられ、「桃屋敷」と呼ばれていました。
桃の咲く季節には近郷近在から多くの人が集まり、宴席も設けられて花見を楽しんだと言われています。